

Ⅲ 研究会紹介

地域・調査研究会

名古屋大学大学院環境学研究科博士後期課程
辻 岳史

「地域・調査研究会」は、2001年7月に発足しました。発足以来、名古屋大学社会学講座の教員・学生に限定されず、多様な所属・専門領域の研究者によって、実証的な社会調査にもとづく研究報告がなされてきました。

2015年3月26日に記念すべき第100回を迎え、創設者・世話役として研究会の運営に尽力された田中重好先生に、「東日本大震災の避難行動」と題したご報告をいただきました。この第100回をもって、世話役は田中重好先生から黒田由彦先生・丹邊宣彦先生・室井研二先生に引き継がれました。2015年10月9日には第101回が開催され、室井研二先生に「巨大災害の国際比較研究に向けた試論」と題したご報告をいただきました。地域・調査研究会は新たな一步を踏み出したといえるでしょう。

地域・調査研究会の特徴の一つとしては、報告のフィールド・テーマの多様性が挙げられます。近年の報告内容を振り返ってみると、フィールドについては日本に限らず、中国、インドなどと様々です。たとえば、田毅鵬先生（吉林大学）には中国都市社会のフィールド調査の成果を〔第97回〕、前島訓子先生（国立民族博物館外来研究員）にはインドの仏教聖地として名高いブッダガヤのフィールド調査の成果を〔第94回〕ご報告いただきました。また研究テーマについても環境・災害・都市政治・郊外など幅広く、時節・流行に左右されない、あらゆる内容の報告がなされています。

さらに、地域・調査研究会のもう一つの特徴として、ゆとりのある報告・ディスカッションの時間設定が挙げられます。報告時間は約60分であり、報告後のディスカッションを含めるとかなりの長丁場になります。この時間設定が幸いして、出席者はしばしば通常の学会報告・研究発表では読みとることが難しい、研究者のアウトプットの背景にあるもの—研究テーマ着手のきっかけ、モチベーションの源泉、調査を通じた思考の軌跡など—に触れることができます。また報告者は、現在進行中・未完成の研究プロジェクトであっても、臆せずにアイデアを発表することができます。

最後に、この場をお借りして、長らく地域・調査研究会の世話役を務められた田中重好先生に、過去の出席者・報告者のひとりとして、御礼を申し上げたいと思います。また私たち学生は、これまで事務局を長きにわたり務められた前島訓子さん・高娜さんといった諸先輩方が、研究会の運営に多大な尽力をされてきたことを知っています。諸先輩方に、敬意と感謝の意をお伝えしたいと思います。私はこれからも地域・調査研究会が「知の創造の場」としてその役目を果たし続けることを期待しています。皆様にはぜひ、引き続き

積極的に地域・調査研究会に参加していただければと思います。また報告希望者も歓迎しておりますので、その際は事務局までお声をかけていただければ幸いです。

「社会政治研究会について」

名古屋大学大学院環境学研究科社会学講座准教授
上村泰裕

社会政治研究会は、大岡頼光（中京大学）、上村泰裕（名古屋大学）、田村哲樹（名古屋大学）、山岸敬和（南山大学）によって2009年に設立された。その経緯については上村（2011）に詳しく、また、第1回研究会の様子は中根（2009）によって紹介されている。その後の展開を一言で要約するのは難しいので、以下に各回のプログラムを掲げる。報告者の専攻分野を大まかに分類すれば、社会学と政治学が11名ずつ、経済学が6名となっている。毎回多彩な議論が展開され、美酒に酔いつつ知的交流を深める幸福を味わっている。本研究会が学問の垣根を越えた交歓と触発の機会であり続けることを願う。

- 第1回 2009年5月7日（参加者37名）田村哲樹（名古屋大学）「ベーシック・インカム、自律、政治的実行可能性」／大岡頼光（中京大学）「死生観と老人介護」
- 第2回 2009年11月26日（参加者20名）西山真司（名古屋大学）「信頼論の展開と転回」／渡邊幸良（同朋大学）「職業と子育て環境」
- 第3回 2010年5月7日（参加者19名）江里口拓（愛知県立大学）「ウェップ夫妻の福祉国家論とその周辺をめぐる」／大井由紀（南山大学）「グローバリゼーション下における越境と境界線」
- 第4回 2010年11月26日（参加者13名）柴田悠（日本学術振興会）「再分配の社会学の試み」／菊池理夫（南山大学）「サンデルの「共通善の政治学」」
- 第5回 2011年5月20日（参加者16名）山岸敬和（南山大学）「戦争と日米の医療保険」／福澤直樹（名古屋大学）「ドイツ疾病保険の生成と展開」
- 第6回 2011年11月24日（参加者18名）山田壮志郎（日本福祉大学）「貧困ビジネスの現状と社会福祉政策の課題」／伊藤恭彦（名古屋市立大学）「世界の貧困問題と富裕国の責任」
- 第7回 2012年5月11日（参加者28名）藤田菜々子（名古屋市立大学）「ミュルダール福祉世界論の現代的意義」／加藤雅俊（立命館大学）「福祉国家再編の日豪比較」
- 第8回 2012年11月22日（参加者14名）大岡頼光（中京大学）「高等教育費の公的負担はどうすべきか」／辻由希（立命館大学）「家族主義福祉レジームと女性労働」
- 第9回 2013年5月17日（参加者12名）加野泉（名古屋大学）「就学前教育政策における